

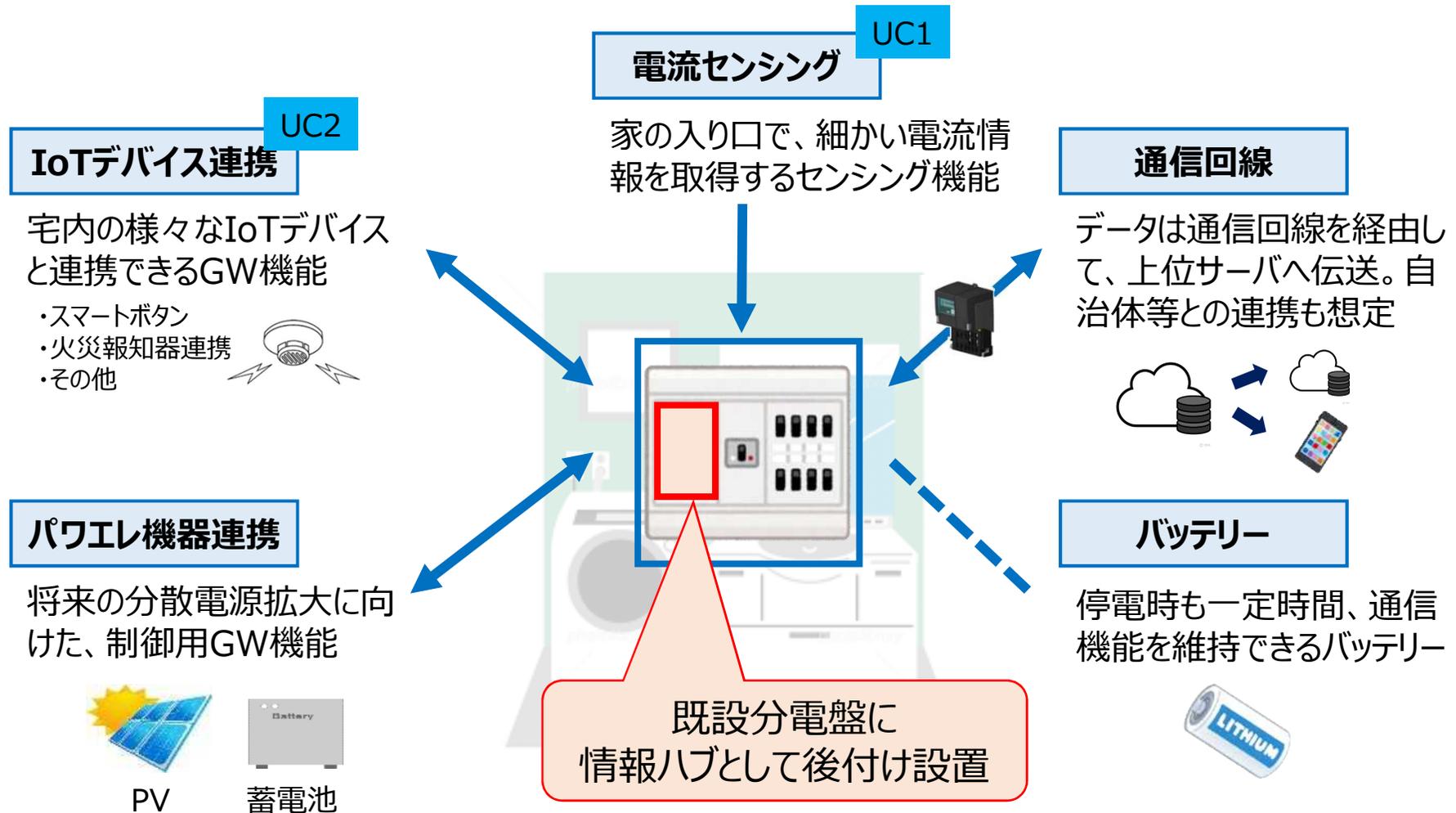
防災・減災に向け家庭内の情報を使った
ユースケースの検証について
(Bルートユースケースの可能性について)

2020年10月28日

東京電力ホールディングス株式会社
防災産業推進室

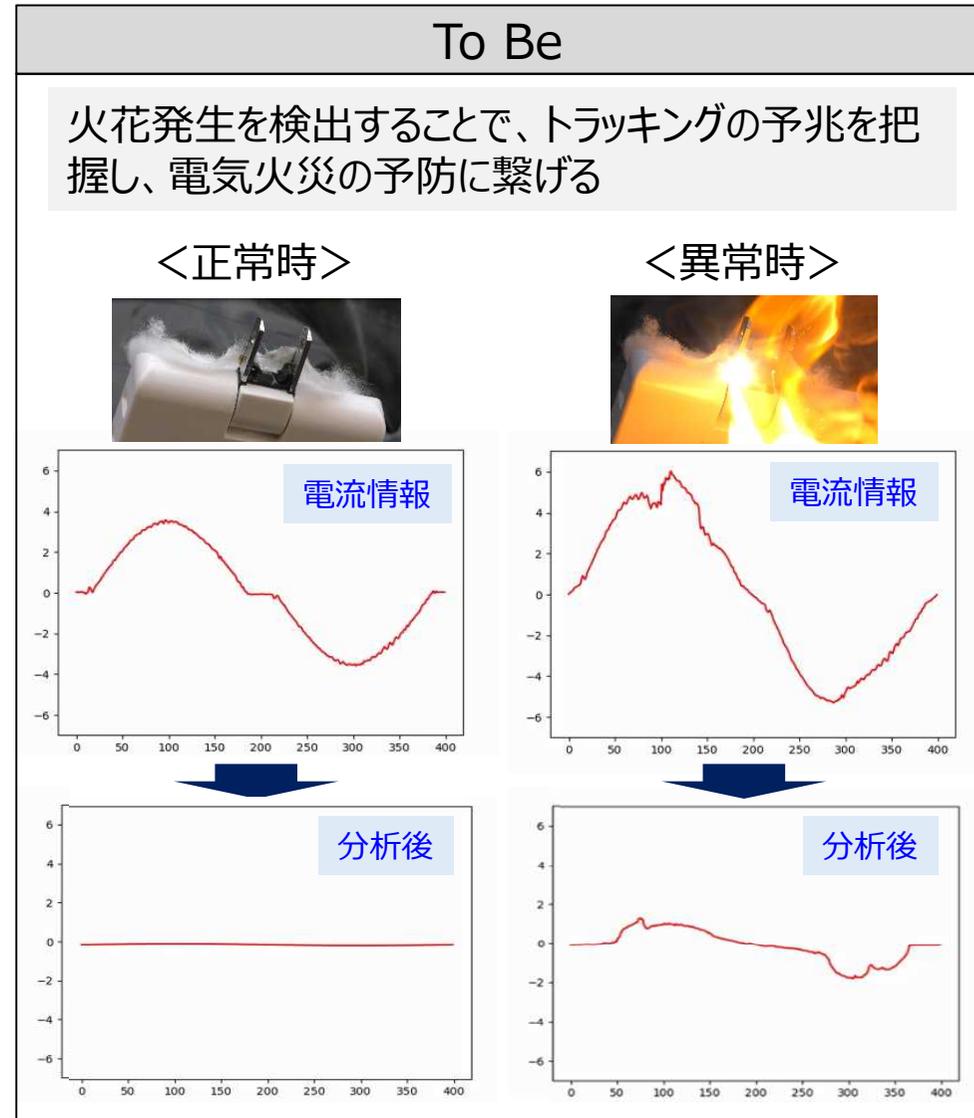
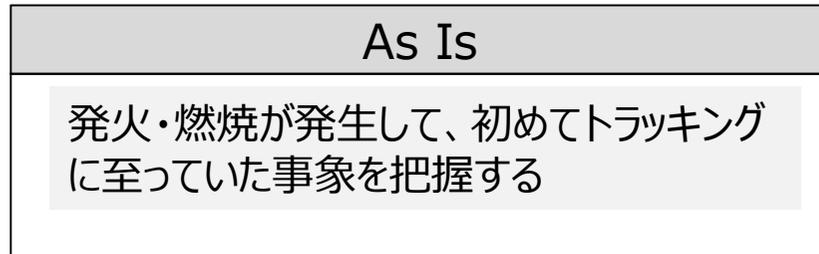
1. スマート分電盤のコンセプト

- 各戸に設置されている分電盤に、防災・減災に資する下図の機能を具備した情報ハブを設置
 - ✓ 平時は、トラッキングの予兆等を検知することで電気火災低減、IoTデバイスを介した新たな価値創造
 - ✓ 災害時は、宅内のIoTデバイスとの双方向通信による情報連係を活用することで、災害の被害拡大を防ぐ

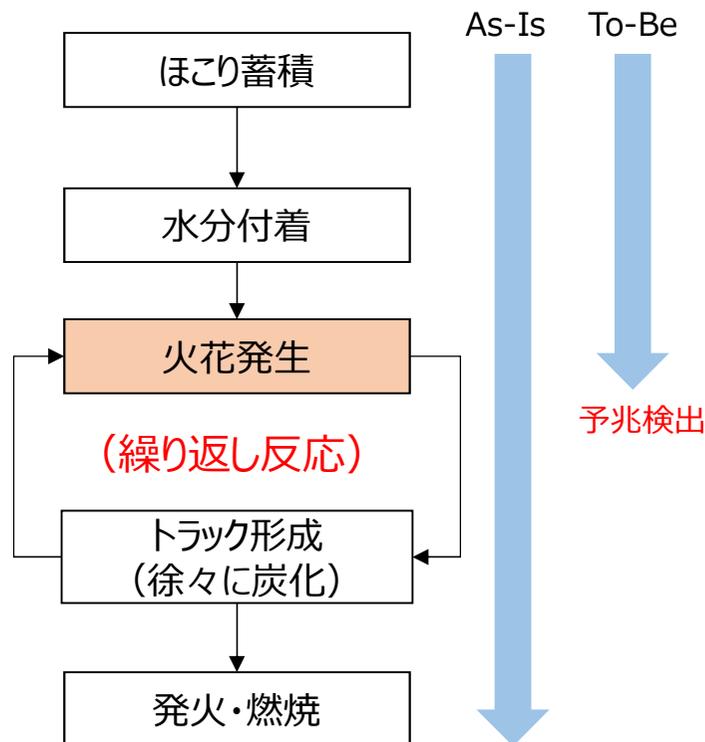


2. ユースケース（1-1）

- 家庭内で使用される詳細な電流情報（波形情報）を用いることで、トラッキングなどの電気火災に至る予兆を検知する

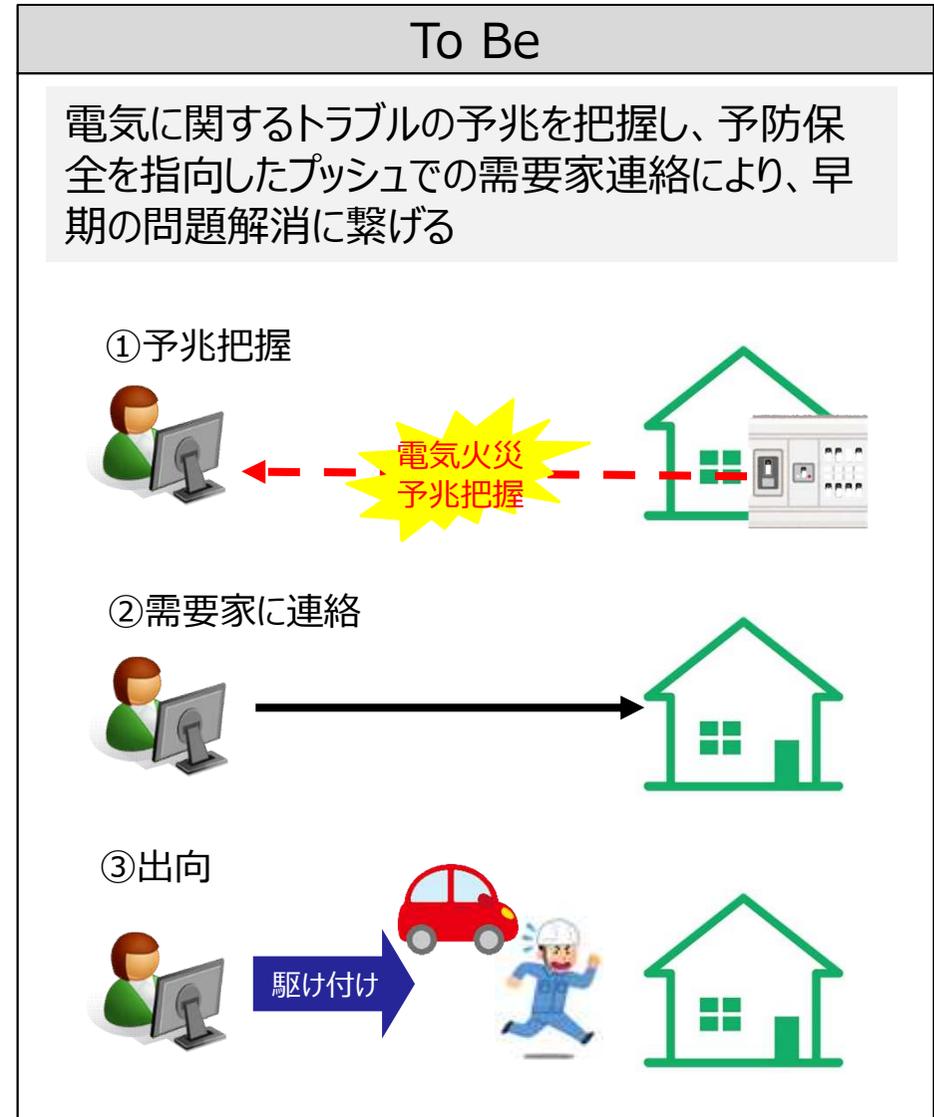
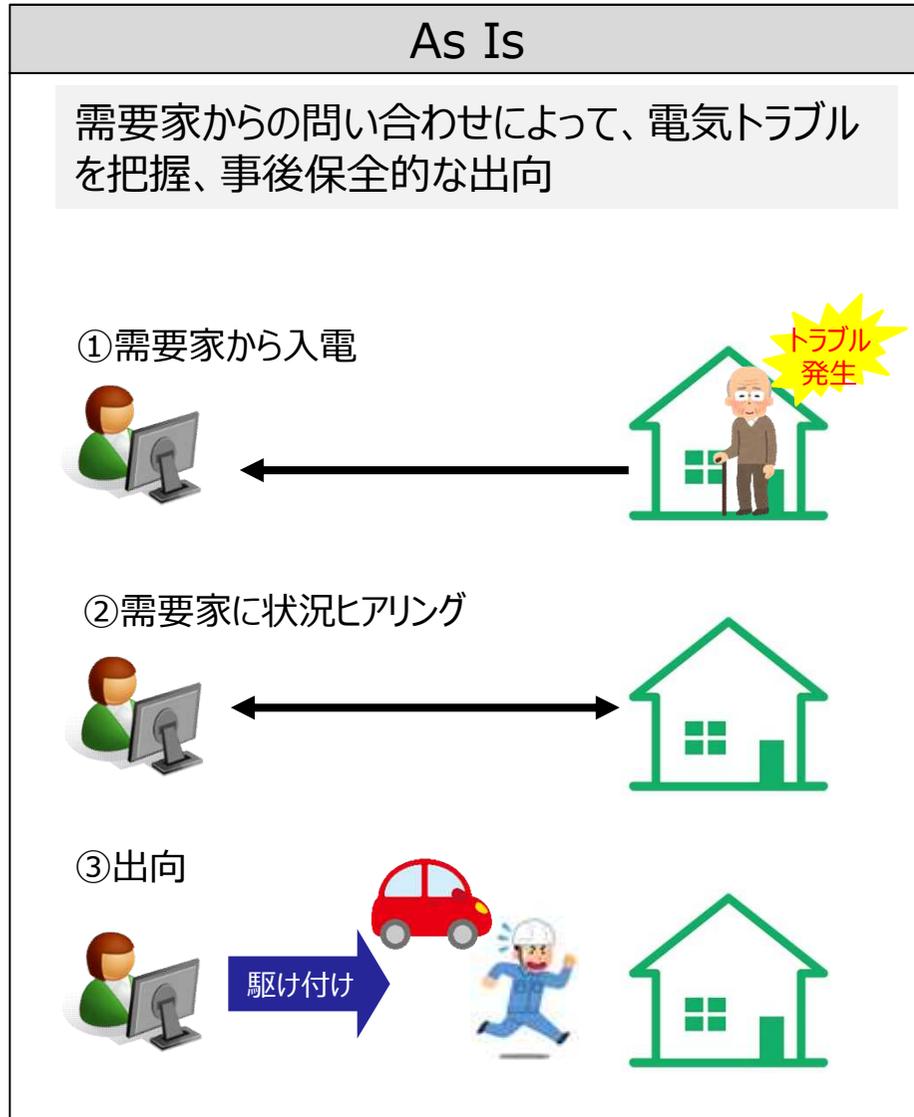


<トラッキングから火災に至るプロセス>



2. ユースケース（1-2）

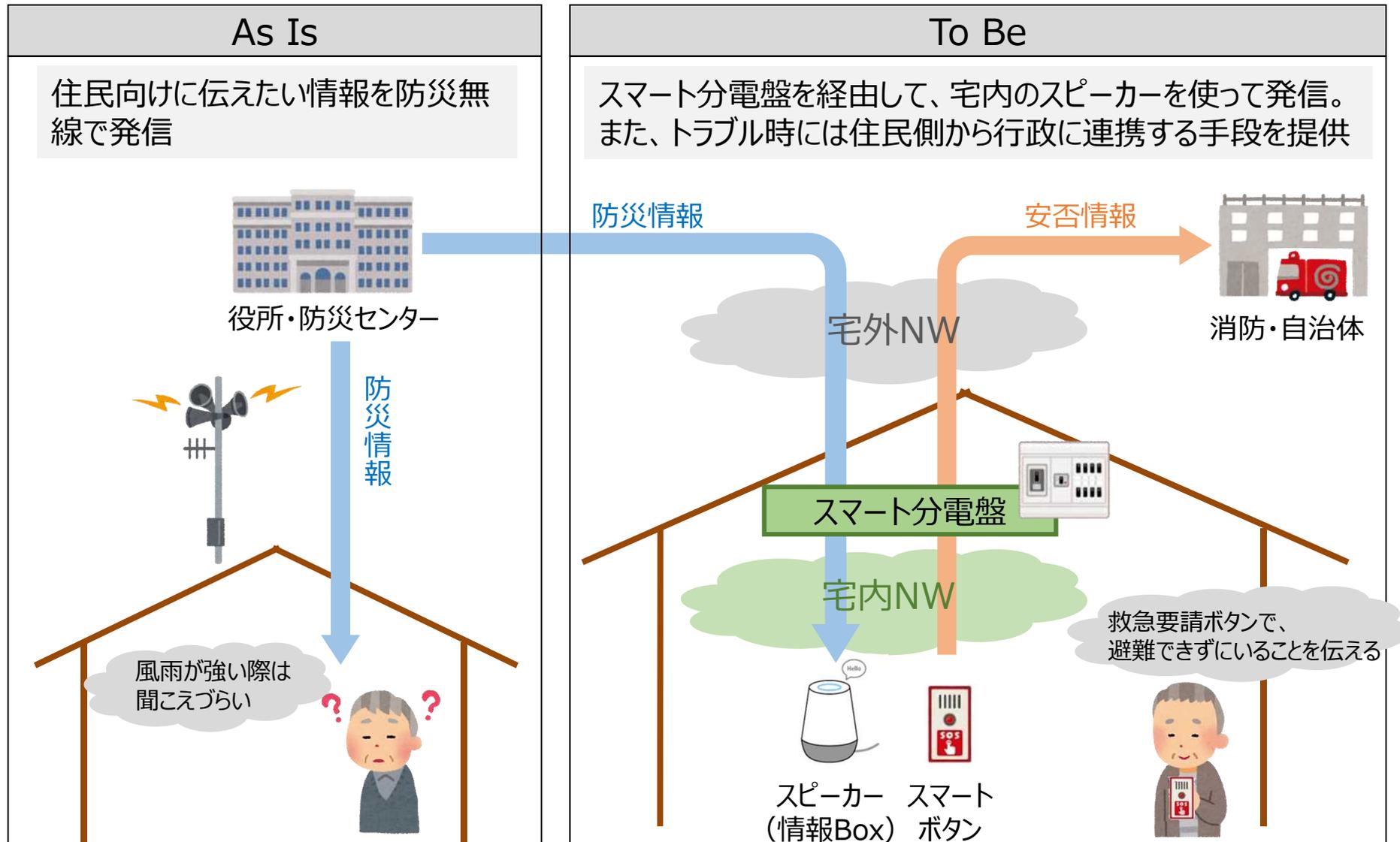
- 需要家からの連絡をトリガーとした応動ではなくて、事業者側からプッシュ通知での問いかけにすることで、サービス品質を向上させると共に、電気保安に関する安全性向上に繋げる



2. ユースケース（2）

5

- スマート分電盤をハブとして、防災情報を伝送すると共に、消防・自治体等と安全情報を双方向でやりとりするような伝送媒体としての機能を担う



— 以 上 —